

焼岳の火山活動解説資料（平成 26 年 6 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
平成 23 年 3 月 31 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2）

北陸地方整備局が設置している焼岳北カメラ（焼岳の北北西約 4 km）による観測では、北峰付近の噴気孔からの噴気の高さは 100m 以下で経過しました。また、同局設置の焼岳南西斜面カメラ（焼岳の西南西約 2.5km）による観測では、岩坪谷上部の噴気孔からの噴気の高さは 60m 以下で経過しました。その他の地域で噴気は認められませんでした。

・地震活動（図 3 - 、図 4）

5 月 3 日から活発化した焼岳山頂の北側数 km を震源とする地震活動は、その後次第に低下しており、今期間、火山性地震の発生回数は少ない状態で経過しました。

なお、山頂近傍の地震は少なく浅部の低周波地震及び火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 1、図 3 - ~ ）

GNSS¹⁾連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

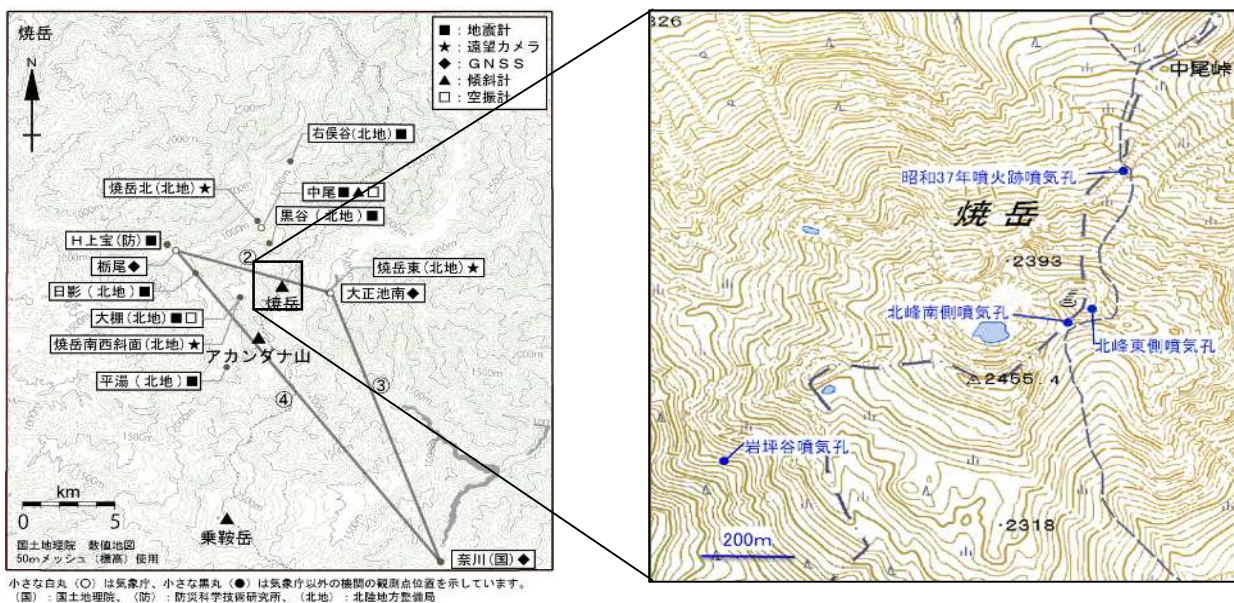


図 1 焼岳 観測点配置及び噴気孔位置
GNSS 基線 ~ は図 3 の ~ に対応しています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 7 月分）は平成 26 年 8 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『2万5千分1地形図』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。



図 2 焼岳 山頂部及び南西斜面の状況

（左図：6月18日 焼岳北カメラ、右図：6月18日 焼岳南西斜面カメラ）

【計数基準の変遷】開始	2010年8月2日～2010年9月21日	中尾振幅 0.5 μm/s 以上、S-P 2 秒以内
変更	2010年9月22日～2011年3月10日	中尾振幅 0.5 μm/s 以上、S-P 1 秒以内
変更	2011年3月11日～2013年9月30日	中尾振幅 3.0 μm/s 以上、S-P 1 秒以内
変更	2013年10月1日～	中尾振幅 2.0 μm/s 以上、S-P 1 秒以内

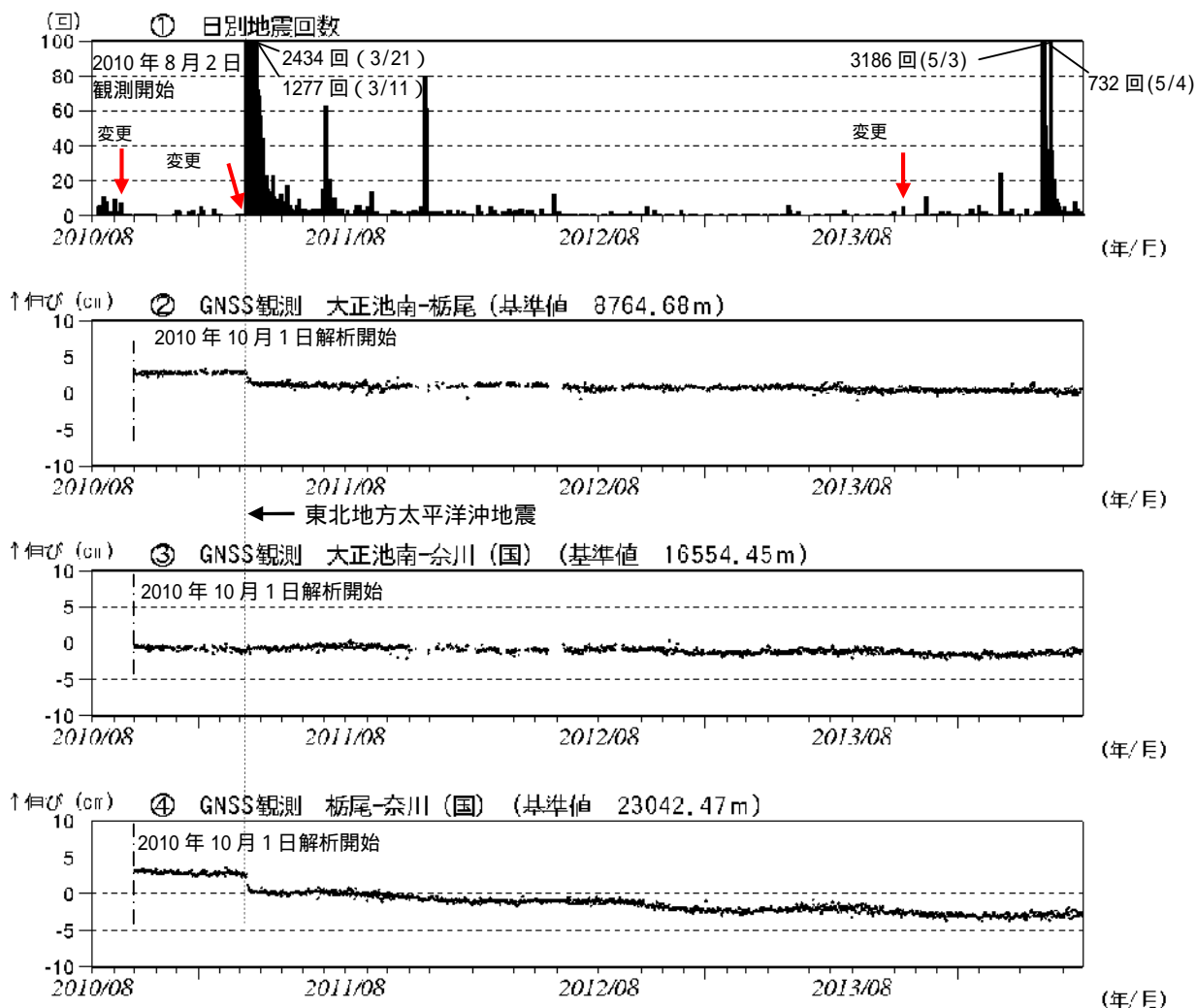


図 3 焼岳 火山活動経過図（2010年8月2日～2014年6月30日）

焼岳周辺の日別地震回数

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震以降、焼岳周辺で地震活動が活発な状況となりましたが、その後、地震活動は低下しました。5月に活発化した地震活動も低下しています。

～ GNSS 連続観測による基線長変化（国）：国土地理院

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、データに飛びがみられます。

～ は図1の～に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。

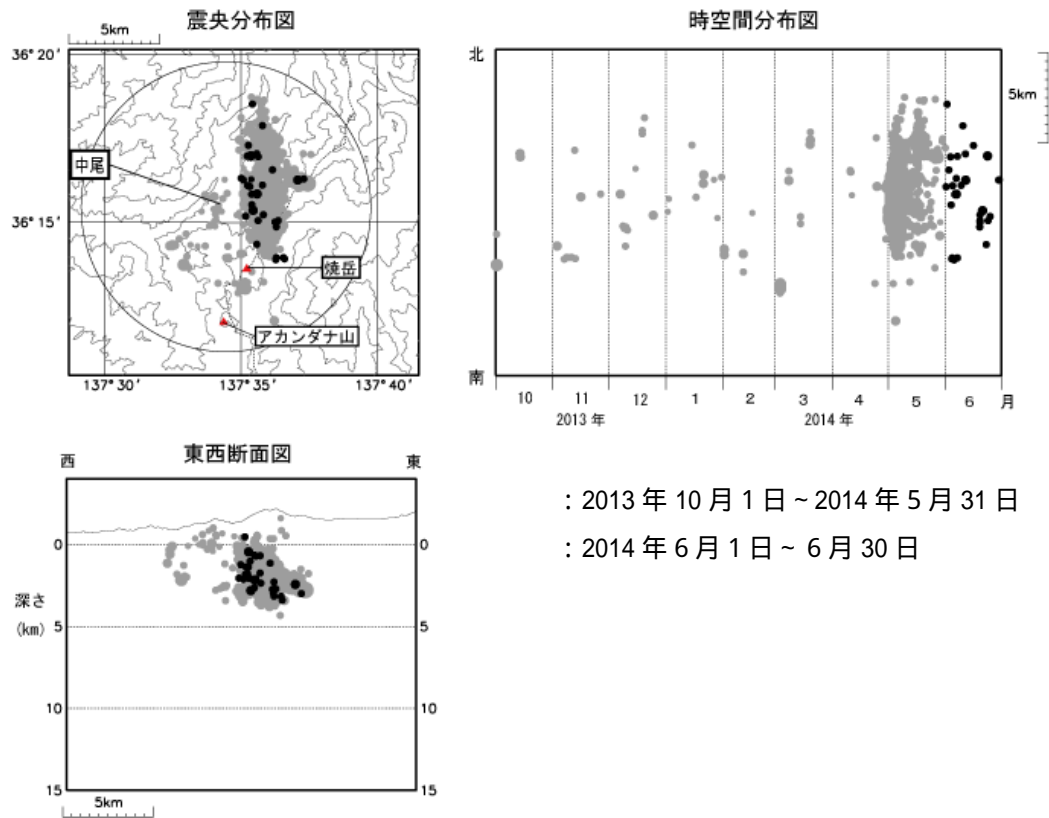


図 4 焼岳 震源分布図（2013 年 10 月 1 日～2014 年 6 月 30 日）

震央分布図中の円は図 3 - の計数対象地震（中尾で S - P 時間 1 秒以内）のおよその範囲を示します。